

## 第47回ぴあフィルムフェスティバル2025



会 期：2025年9月6日（土）～20日（土） オンライン配信は10月31日（金）まで  
 会 場：国立映画アーカイブ  
 主 催：（一社）PFF／（独）国立美術館国立映画アーカイブ／（公財）川喜多記念映画文化財団／（公財）ユニジャパン  
 後 援：（特非）映像産業振興機構／（協組）日本映画監督協会  
 対 象：一般  
 公式サイト URL：https://pff.jp/47th/

総来場者数（参加数）：7,090人／前年比101%  
 （リアル参加：4,575人／前年比88%、オンライン視聴：2,515人／前年比126%）  
 プレス社数：新聞社：6／通信社：1／雑誌：1／WEB：18／テレビ：2／ラジオ：1

### ■開催内容

#### ●自主映画コンペティション「PFFアワード2025」

全国から応募された自主映画795本（前年比+103本）の中から選ばれた入選作品22本を各2回ずつ上映、さらに映画祭初日から映画祭終了後の10月31日までオンライン配信も実施。映画祭の表彰式で、5名の最終審査員がグランプリほか各賞を発表。グランプリに輝いた中里ふく監督の『空回りする直美』をはじめ、合計7作品が受賞した。  
 最終審査員：門脇麦（俳優）、関彦彦（プロデューサー）、福永壮志（映画監督）、山内マリコ（作家）、山中瑤子（映画監督）

#### ●ヌーベルバーグ特集 ～映画史的ヌーベルバーグの代表作～ ～私のヌーベルバーグ作品～

ヌーベルバーグ特集は、ゴダールを筆頭とした、現在では“古典”となった名作を上映する「映画史的ヌーベルバーグの代表作」と、その人にとってのヌーベルバーグ体験を告白していただく「私のヌーベルバーグ作品」の2つの企画で展開。後者の企画では、山下敦弘監督、吉田大八監督、山中瑤子監督、ピーター・バラカンら、総勢8名のゲストが私的な映画体験を披露した。

#### ●追悼・篠田正浩監督

「松竹ヌーベルバーグ」を代表する監督で、PFFの審査員などを通して若い監督を支援して下さった篠田正浩監督の『夜叉ヶ池』を上映。現場を知る特撮スタッフが、当時の思い出を語ってくれた。

#### ●私が憧れた女優たち ～梶芽衣子デビュー60周年企画～

2025年にデビュー60年を迎えた女優・梶芽衣子に、いまこそ若者に観てほしいという、憧れの女優たちの4つの名作について語っていただいた。『カサブランカ』『流れる』の上映時は、『まる』の荻上直子監督が聞き手として登壇した。



国立映画アーカイブロビー



PFF アワード受賞監督と最終審査員

### 第47回ぴあフィルムフェスティバル2025



#### ●世界が驚く日本の8mm映画たち

- ・PFFアーカイブ「自由だぜ！ 80年代PFF入選作品」

PFFがデジタル化している過去の8ミリ入選作品を上映する企画の3年目。今年は『リトル・ウィング』『どてらワルツ'81』『爆BACK』など8作品を上映し、7名の監督が登場。1970～1980年代の8ミリ映画ムーブメントを振り返った。

- ・ハーバード大学・自主映画アーカイブプログラム

日本の8ミリ映画を将来に向けて残すために、アメリカのハーバード大学がデジタル・アーカイブ事業を開始。このコレクションの中から6本の作品を上映。

#### ●第30回PFFプロデュース作品お披露目

最新のPFFプロデュース作品『メイメイ』を完成披露上映。監督の蘇鈺淳（スー・ユチュン）をはじめ、台湾から駆けつけてくれた主演女優ら4名によるトークを実施。

#### ■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

（一社）PFFと同じく、日本の8ミリ作品のデジタル・アーカイブ化を始めたアメリカのハーバード大学の協力を得て、同大学がデジタル化した作品を6本上映した。あわせて、担当教授であるアレクサンダー・ザルテンが来日し、ゲストとして登壇した。教授と上映作品の監督、制作スタッフ、出演者などとのトークも盛り上がり、国際的な交流や意見交換が活発に行われた。



『爆裂都市\_BURST\_CITY』の石井聰互（岳龍）監督と  
山中瑤子監督、吉田大八監督



2025年にデビュー60年を迎えた女優・梶芽衣子



『メイメイ』の蘇鈺淳監督と王渝萱、王渝屏、水間ロン、浅井大智



『MOMENT』の手塚真監督